

公民館・学校・地域商社との協働による地域運営の仕組みづくり

赤とんぼの舞うふるさと作り

—何事もやってみなくちゃ分からない—

益田市真砂公民館

1 公民館の概要

真砂公民館は、島根県の西端の益田市の“へそ”に当たる位置の真砂地区にある。真砂地区は旧益田市の最高峰「日晩山 743.5m」を背後に、益田川にそそぐ波田川水系の源流にひっそりと息づいている。当地区は中世の時代より整備され、益田市の食糧基地として、また防災的視点からの農地による保水機能の維持などがなされてきたが、近年の少子高齢化により、人口423人、世帯数186世帯、高齢化45.2%、小学生18人、中学生8人と、往時からは想像もできないほど人口が減少してしまい地域の存続すら危惧される状況にある。

2 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名

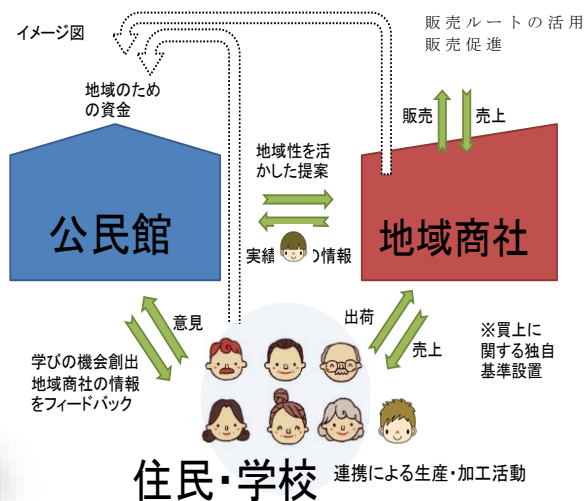
「公民館・学校・地域商社との連携による地域づくり」

② 実証事業のテーマ

「公民館・学校・地域商社との協働による地域運営の仕組みづくり」

③ 実証事業のねらい

公民館による住民参加の学びの機会を通じて、学校（学校支援本部事業・ふるさと教育推進事業など）、地域商社（住民有志が地域資源の利用と地域の元気づくりに取り組むコミュニティビジネスを目的とした法人）が連携・融合を図りながら地域資源を利用した生産活動と加工品などの開発販売に取り組む。これらの経済活動を通じ地域の特色を活かした農地の維持管理を進めると共に地域課題の一つである「休耕地・休耕田・荒廃山林」の活用を目指す。これらの活動により地域の人たちに「いきがい」が生まれ元気で活力あふれる故郷が出来上がる。



(2) 具体的な取り組み

① 研修会の開催

本事業を積極的に取り組むための受け皿として「真砂の食と農を守る会」を設立し、主体的に取り組んでいただいている。また安心安全な野菜づくりを進めて行くために有機農法等に取り組まれておられる先進地の指導者においでいただき研修会を開催した。消費者の求めておられる安心安全とは何か、生産者の野菜づくりへの思い、などを共有していただくため市内消費者との意見交換会を開催した。



有機野菜づくり研修会

② 公民館・学校地域商社との連携

ア 中学校キャリア教育の共催

中山間地でコトおこし（益田市起業家教育）講演会「～真砂から始めよう！今、中学生に伝えたいこと～」をテーマに県西部で起業されておられる講師3名をお招きして開催した。



真砂中学校キャリア教育講演会

イ 味覚の授業開催

「おいしく、たのしく、かしこく食育～味覚の授業」をテーマに開催

子どもたちに本当に美味しいものを食体験させ、味覚の発達を促し、同時に食への関心を持たせること。共に自分たちが暮らしている地域には素晴らしい食材がある事を知らせ、地元の食文化・風土に誇りをもたせる。参加者全員が本物の味を知り、今後の食生活についてみんなで考え、今後につなげていく。事を目標にし。県内で食育活動に取り組んでおられるシェフを招き、ミニ講演会や開発された食品の試食会などを行った。



食育授業講演会



開発食材試食会



開発食材 真砂のから揚げ



開発食材 真砂バーガー



食材開発講習会

③ 商品開発

ア 商品開発

小学校・中学校・保護者・地域団体それぞれが、シェフの指導のもと数種類の製品を開発した。

④ 新しい公共事業との連携

事業主体「益田市市民活動推進協議会」との連携により、市内保育所の給食食材を地域で収穫される安心安全な食材で賄う事業。今年度11月から「真砂の食と農を守る会」が連携主体となり、市内2保育所へ食材の供給を開始した。

⑤ 地域情報の発信

地域の人たちの頑張りを地域外に情報発信することで、地域全体が今以上に元気になり、やる気をもっといただける事を念頭に情報発信に取り組む。「洗練された田舎町」を基本に、田舎ならではの親しみやすさと、洗練されたデザインとを融合させることにより、若い世代にも真砂地区の魅力を存分に感じさせるサイトを作成した。

真砂ブランドのイメージ統一のためポスターで使用している「真砂+」をタイトルにしたwebサイト展開をしていく



(1) 成果

- ① 田畑の活用について「真砂の食と農を守る会」が主体となり、住民の方々の野菜づくりについての思いなどを、今以上に強い気持ちで取り組んでいただくための研修会や、意見交換会などを数回に渡り開催してきた。また安心・安全な食材を地域内はもとより地域外の多くの人たちに提供するためにはどうしたらいいのか、保育所への食材供給については、「ちょっとだけおすそ分け・一本、一株多く植えよう」「一人一人の経済力の向上」を合言葉に田畑の有効活用などに取り組んで行こうという思いが広がりつつある。
- ② 商品開発について、小中学校で、子どもたちと先生、商社との合同で商品開発に取り組むことで地域食材について認識を新たにすると共に、作り上げた商品を販売することで経済についての勉強になっている。

- ③ 地域について、以前から様々な食品の開発に努めてきた。合同開催した「食育授業」に向かってさらなる食品の開発に取り組まれた。商品の中には市内大型店での試作販売に於いて好評価を得たものもあり、新商品としての販売も見えてきた。これらの取り組みを地域外に情報発信していくことで、「多くの方に真砂に目を向けていただく、真砂に足を運んでいただく」多くの交流や情報を得ることが出来るようになった。
- ④ 多彩な事業を開催してきた事で、住民の方の考えが変化しつつあり、今の生活に満足しないで更なる向上を目指して頑張っていこう、子や孫に元気な真砂を引渡したいという「小さいけれども強固な輪」が出来つつある。

(2) 課題

イベント開催などでは素晴らしい成果を上げていたが年間を通じての地域のまとまりや、地域経済力の向上などについては無頓着であり“今が良いから”的考えが根強く残っている。そのような地域の方々の考えや、行動をもっと前向きな考えになっていただくための活動を実施しているが、小さい地域とは言え長年に渡って固辞してきた思いを変えていただくのは簡単なものではない事を実感している。これからは地域の方々が同じ方向に目を向けていただき、積極的な行動を起こしてくれるかに真砂の将来はかかっている。

3 今後の方向性

- (1) 学校との連携は食育授業を“つくる”から“食べる”事までを年間を通じて取り組む。
- (2) 商品開発については小中学校・地域団体と連携しながら通年に渡って季節食材を利用した食材の開発に取り組むと共に販売についても商社と力を合わせ取り組んで行く。また長い歴史の中から先人が伝えてきた食事を伝承していきながら「これぞ真砂！」の食材を開発しイベントなどで提供したい。
- (3) 安全安心な野菜づくりについては保育所給食食材の供給事業を見据えた作付面積の拡大や肥料等の抑制など、前向きに取り組む強い思いが少数ではあるが芽生えてきているので大切に大きく育てて行きたい。
- (4) 今年度各種の事業に取り組んで素晴らしい成果を上げてきた。その流れを更に発展させながら強く押し進めて行くことにより住民一人一人の経済力の向上につながる。地域が元気であれば多くの方が訪れるようになり更に活力ある力強い元気な地域が出来上がる。そのためには真砂人`全員が、同じ目標に向かって手を携え力強く進んで行くための環境作りを心がける必要がある。